

VIII 研究体制の問題

A 国内の体制

1) 資料整理の問題 (資料の収集, 資料研究機器の充実)

2) スタッフの充実

B 南極での輸送の問題 (船, 航空機)

C 基地

1) 昭和基地の拡充

2) 衛星基地の設置 (Enderly 又は Yamato Mts.)

3) 新基地の設置 (Robert English Coast 又は Laasitter Coast)

D 地学としての“定常観測のあり方”

1974 年度地球化学協会学術賞 (三宅賞)

1974 年度三宅賞の第 2 回受賞者は本田雅 健 東 大教授 (地球外物質中の核反応生成物に関する研究) に決定し, 12 月 4 日 (水) 霞が関ビル 33 階東海大学校友会 館において, 授賞式および記念講演会が開かれた。

その業績の内容は次のようなものである。本田雅健教授は, 分析化学, 地球化学, 宇宙化学の領域において, 多くのすぐれた業績をあげているが, とくに最近約 15 年間にわたって行われた地球外物質中の核反応生成物に関する研究は高く評価されている。地球外物質中の微量の同位体を正確に測定するための分析法, とくに化学分離法, 放射能測定法, 質量分析法を確立して, これを地球外物質に適用している。その結果, 日のケタから 10^9 年に及ぶ半減期をもつ各種の放射性核種を分離定量することに成功した。またカリウムからマンガンに至る領域の元素の長寿命ないし, 安定同位体の存在度の変動を追求した。隕石試料に対しては, 10^9 年にさかのぼる銀河宇宙線の効果, 月試料に対しては, 10^7 年以上にわたる太陽宇宙銀河線の影響などが明らかにされ, 各宇宙線の消長と, これら地球外物質の歴史について貴重な情報が得られた。

これらの研究は, 最近の宇宙化学の研究の中で, すぐれたものの一つと言うべきであり, その国内および国外における評価はきわめて高い。(なお, 第 1 回の同賞受賞者は北野康名大教授「炭酸塩堆積物の化学的研究」であった)

学会事務所 (166) 東京都杉並区高円寺北4-35-8
気象研究所 地球化学研究部
電話 (03) 337-1111 内線 75
振替口座 東京 38679
日本地球化学会

ニュース (213) 川崎市高津区久本135
発行所 地質調査所 地球化学課
倉 沢 一
海洋地質部
松 本 英 二
電話 (044) 866-3171

日本地球化学会ニュース

No. 72. 73

1975. V. 10

国立国会

10. 7. 26.

図書館

選挙公示

日本地球化学会 1976・1977 年度役員選挙 の立候補者および推薦候補者の届出について

1975 年 4 月 5 日

日本地球化学会役員選挙管理委員会

本会会則により, 1976, 1977 年度役員の選挙を次の日程で行ないます。

立候補者・推薦候補者届出×切 7 月 31 日 (必着)
選挙公報・投票用紙・会員名簿発送

8 月 25 日

投票×切 9 月 30 日 (必着)

選挙結果公表 (総会) 10 月 24 日

つきましては, 下記により, 会長, 副会長, 評議員に対してそれぞれ立候補者および推薦候補者の届出をしていただくようお願いします。

1. 会長 1 名, 副会長 1 名, 評議員 20 名を選出します。

2. 立候補者の届出は, 届書を立候補者自身が, i) 本委員会に持参するか, または ii) 本委員会宛に送付してください。

3. 推薦候補者の届出は, 推薦候補者名と推薦者名を記した届書に, 推薦候補者の承諾書をそえて, 推薦者またはその代表者が i) 本委員会に持参するか, または ii) 本委員会宛に送付してください。

4. 第 2 項と第 3 項に記した以外の方法で届出が行なわれた場合には, 届書をうけつけることができません。

5. 郵送の場合は「書留郵便」としてください。届書の封筒の表に「選挙」と書き入れてください。

6. 届出の×切は, 1975 年 7 月 31 日 (必着) です。

7. 本委員会の所在地は, 東京都杉並区高円寺北 4-35-8 気象研究所地球化学研究部内 (☎166) です。

新名簿発行のため, 住所および勤務先変更のかたは, 至急, 学会事務所へご連絡下さい。6 月 30 日を×切とします。

お知らせ

1975年地球化学討論会

主催 日本地球化学会

共催 日本化学会

日時 10月23日(木) P.M. 2:00～
25日(土) A.M. 12:00

会場 大学セミナー・ハウス(☎192-03 東京都八王寺
市下柚木1987-1) TEL. 0426 (76) 8511 (代表)
交通 中央線 八王寺下車,
京王線 京王八王寺下車
京王バス 国鉄八王寺南口一野猿峠

内容 課題討論および一般討論

課題討論 「宇宙物質の化学」

講演申込締切 6月30日(月)

同封の別紙申込用紙(B5)により申し込んで下さい。
講演部門はプログラム編成上変更することがあります。
講演, 討論時間は20分(一般討論)以内です。スライドは35mmに限りです。

講演要旨原稿締切 8月9日(土)

講演申込を受付次第オフセット用原稿用紙をお送り致します。それに黒インクで清書し, 下記にお送り下さい。要旨は一般討論1200字(原稿用紙1枚)以内, 課題討論2400字(原稿用紙2枚)以内とします。

参加費 500円(学生無料)

参加申込書と一緒に送金して下さい。

講演要旨集代 1500円(送料共) 予約送金された方々は, 9月中旬までに郵送する予定です。

要旨集予約, 参加および宿泊申込締切日 8月9日(土)

要旨集は印刷部数を限定しますので, 御入用の方は参加あるいは講演希望の有無にかかわらず, 別紙申込書でお申し込み下さい。

参加者は講演希望の有無にかかわらず全員別紙申込書でお申し込み下さい。

参加者は開催期間中全員宿泊されるものとして, プログラム編成をおこないます。宿泊および食事について申込用紙の所定の欄に記入の上お申し込み下さい。(宿泊予約2000円)

総会 10月24日(金) 午後

懇親会 10月24日(金) 18時頃より大学セミナー・ハウス大食堂で行なう予定。(会費15,000円)

申込書, 要旨集原稿, 予約金送付先

☎158 東京都世田谷区深沢2-1-1
東京都立大学理学部, 半谷高久
(電話 (03) 717-0111 内線 312)

申込書に印刷してある宛先用紙を御利用下さい。

宿泊および食事について

1. 食事 1日3食, 全部で1300円程度
(ただし, 食費は1食づつ計算します。)

2. 宿泊

- 1) 一般はすべて2人1室, 1人1300円程度, 約200人分
- 2) 教師館は1人1室, 1人1500円程度, 8人分
- 3) ゲストルームは1人1室, 1人1700円～2400円程度, 4人分
3. 1人1室はわずかしかなかったりしますので, 御申込通りいかないこともあるのをご承知下さい。
4. 食事および懇親会のみ予約することもできます。
5. 実際の宿泊費, 食費と予約金との差額は会場で清算します。
6. なお, 前日10月22日および終了日10月25日の宿泊御希望の方は, 討論会スケジュールとは別に直接, 前記セミナー・ハウスに御申し込み下さい。(大学セミナー・ハウスの「東京事務所」は, ☎103 東京都中央区日本橋本町3-3三井銀行本町支店ビル内 TEL. 03 (241) 3961)

評議員会報告

日時 1974年10月1日(火)
場所 学習院大学輔仁会館(21名出席)
報告

1. 1974年度討論会(木越討論会委員長)
順調に進行している旨の報告があった。
2. JSC関係
 - ・日本学術会議25年史が刊行された。創立25年記念式典が10月25日に行なわれる(本会より寄附1万円)
 - ・7月の第4部会において認定学術団体となることが承認された。
 - ・地球化学・宇宙化学研究連絡委員会設置のための予算等を1975年度にも再び要求することとした。
 - ・海洋学研究連絡委員会のIDOE小委員会が9月27日開催された。将来IDOE特別委員会を設置するよう申請することとなった。
 - ・総会地球科学に関するシンポジウムが開催される予定。
 - ・地球物理学研究連絡委員会のびわ湖深層掘削小委員会委員に中井信之氏を推せんした。(推せん母体地球化学・宇宙化学合同委員会)
3. IAGC関係
 - ・塩素化炭化水素の国際測定法比較検定に日本の参加を求める手紙(モナコ海洋放射能研究所)の紹介。(配布資料あり)
 - ・IAGCのrook-water interactionに関するシンポジウムの次回日本開催に関する意見が本年カナダで開かれたIAGCの会合の際に出された。
 - ・IAGC/IAHS/CCIW共催のGeochemistry of Natural Waters シンポジウム(1975年8月18～20日, カナダ, オンタリオ, バージントン)に関する報告があった。(資料配布)

各委員会報告

1. 極地問題委員会
 - ・第16次南極観測隊員(越冬)として本学会関係では環境科学のプロジェクトに我孫子氏(室蘭工大)が参加する。
 - ・なおDVDPには加藤(名大水圏研), 倉沢(地調), 鳥居(千葉工大)の各氏が参加する旨報告があった。
 - ・国立極地研究所地学専門委員会の地学将来計画案が紹介された。(本ニュース No. 70, 71参照)
 - ・国立極地研究所の運営協議員に浜口博氏が就任した。
 - ・本委員会委員に浜口博氏を追加委嘱した。
2. 会則検討委員会
委員として杉浦吉雄, 半田暢彦, 半谷高久, 綿拔邦彦の各氏を依頼した。(委員長本田雅健)
3. 将来計画委員会(委員長 綿拔邦彦)
今期委員として, 岩崎文嗣・加藤喜久雄・梶原良道・桑本融・倉沢一・坂田朗・白波瀬輝夫・鈴置哲朗・角皆静男・寺田喜久雄・渡久山章・半田暢彦・平林順一・松井義人の各氏を依頼した。
4. 行事委員会

9月5日に赤門学士会館においてC.C. Patterson教授の講演会を行なった。

5. 編集委員会

G. J. Vol. 8. No. 3 が刊行された。No. 4 は少々遅れる予定。

6. 財政委員会

最近の学会財政状況の解析結果について報告があった。

議題

1. 1974年度総会について

総会の議事内容について審議した。報告および議事は次の順序にきめた。

1. 1973年度事業報告および決算報告
2. 1974年度事業中間報告および会計中間報告
3. 1975年度事業計画案
4. 会則の一部改正
5. 1975年度予算案

1974年度事業中間報告および会計中間報告, 1975年度事業計画案を原案通り承認した。

財政委員会提案による会費値上げ案(4000円)を承認し会則第6条の改訂を承認した。

2. 出版関係

「地球化学」の環境問題特別号の刊行について本年度討論会主催者よりの提案があり, 無料配布しない特別号の発行を承認した。

3. 12月, 2月例会

12月例会は名古屋, 2月例会は東京で開催する予定。

4. 1975年度討論会について

開催地として北海道・東京(都立大)・九州・沖縄などの案が出された。次回評議員会で決定することとした。

5. その他

12回理工学における同位元素研究発表会の共催を例年どおり承認し, 運営委員として杉浦吉雄氏を推せんすることとした。

日時 1974年12月14日(土)
場所 名古屋共済会館(13名出席)
報告

1. JSC関係

- ・日本学術会議第10期会員選挙がおこなわれ, 学会推せんの大森昌衛, 黒田吉益, 藤永太一郎, 三宅泰雄, 八木健三の各氏が当選した。
- ・IDOE(国際海洋研究10年計画)小委員会を特別委員会にすることは, 学術会議改選後の第10期へ申し送り事項とした。
- ・地球化学・宇宙化学合同委員会では事務連絡を円滑にするため4名の幹事をおくこととし, 三宅泰雄, 小穴進也, 本田雅健, 松尾禎士に幹事を委嘱し, 松尾幹事には事務担当を依頼した。

2. IAGC関係

IAGC ニュースレター No. 4 を配布。

各委員会報告

1. 極地問題委員会

- ・本学会関係では第16次南極観測隊員(越冬)安孫

要旨	部	受付番号*	氏名	年令	男女
連絡先	☎				
宿泊の希望	1人室・2人室・なし	受付番号*	備考		

*印には記入しないで下さい。

この申込用紙一枚につき一名づつ申し込んで下さい。
参加者は下の表に必要な有(○印)無を記入して下さい。(全員宿泊が原則です)

月 日	朝 食	昼 食	夕 食	宿 泊
10月23日(木)				
10月24日(金)			懇親会	
10月25日(土)				

送金額	要旨集	参加費	宿泊・食事予約代	懇親会費 (宿泊者は不用)	計	円
	1,500円	500円	2,000円	1,500円		

(希望項目を○でかこんで下さい)

受領書 1975年 月 日

様

要旨集	円
参加費	円
宿泊、食事予約	円
懇親会	円
計	円也

領収致しました。

1975年地球化学討論会 責任者 半谷高久
(原則として参加取消しによる予約金の返済はいたしかねます。)

〒158

東京都世田谷区深沢1-1-1
東京理科大学理学部
一九七五年地球化学討論会準備委員会

半谷高久宛

要旨集送り先を記入して下さい。

申込書郵送先

子勤氏(室蘭工大)は11月25日、ふじで出発した。DVDPには加藤喜久雄氏(名大水圏科研)が10月15日に、鳥居鉄也氏(千葉工大)が11月27日に、倉沢一氏(地調)が12月9日にそれぞれ出発した。

- ・南極観測に関する環境科学の将来計画をたてることになり、委員会として地球化学関係の案を提出した(資料配布)。
- ・第17次南極観測(越冬)には地球化学関係は参加しないことになっており、従って隊員推選の依頼はなかった。
- ・DVDP終了後は西南極の Dufek massif の国際協力による研究が計画されている。

2. 行事委員会

本日、名古屋大学において12月例会を開催した。

3. 会則検討小委員会

前回の評議員会以後2回委員会を開催した。来年度の役員選挙に間にあるよう2月の評議員会に改正案を提出する予定である。

4. 将来計画委員会

1月中旬に開催予定である。

5. 編集委員会

「地球化学」特別号(環境問題)は原稿19件が集まり、2月末をメドに編集集中である。

6. 地球関係欧文総合誌検討委員会

総合誌としては欧文、季刊以上、年間500ページ以上、1,000部以上、海外へ1/2以上出ること、代表的なもの等の条件があるとの説明があった。参加、不参加についてG.J編集委員会でさらに検討し、評議員会にはかる予定である。

7. 財政委員会

財政についてニュースに原稿を送った。賛助会員の増加について各評議員の協力が要請された。

8. 庶務関係

- ・日本学術会議より本学会をJSCの認定学術団体とする公文書が届いた。
- ・黒田吉益、三宅泰雄、藤永太郎の各氏より学術会議選挙に対する協力の礼状が届いた。
- ・1974年討論会の会計報告がまとまった。
- ・第12回理工学における同位元素研究発表会の運営委員会が10月16日に開かれた。

議 題

1. 1975・1976年度討論会について

行事委員長より文書で、1975年の討論会は九州大学理学部で開催するのが適当であること、さらに具体的には木田教授を準備委員長とし、樽谷氏が世話人となることの内諾を得たとの報告があった。討議の結果九州大学理学部で開催する場合、日本化学会連合会とは別に、独立に開催する(日本化学会との共催をふくむ)。(後日、開催地変更)
1976年の討論会は名古屋で開催することが決定した。

2. 2月、6月例会について

2月例会は2月15日(土)東京で二つの話題をとりあげ、その一つは久城育夫氏の silicate melt に関する講演とし、他の一つは講演者未定である。

6月例会の講演は黒田和夫氏に依頼することになった。

3. 次期役員選挙について

選挙管理委員は杉浦吉雄、綿坂邦彦、小沼直樹、山県登の4氏に委嘱することをきめた。

4. 朝日新聞奨励研究推選の件

脇田氏より申出であった「地下水中のラドンの変動による地震の予知の研究」の学会推選を原則的に承認した。

5. Geochemical Journal のページ・チャージ改訂と表紙デザインの変更について

・G.Jのページ・チャージを初夏より均一に1,200円/ページ(4ドル/ページ)にしたいとの提案が増田編集委員長よりあったが、重大問題であるので急いで決定すべきでないこと、したがってこれに関するニュース原稿は削除することがきまった。

・G.Jの表紙デザインの変更について提案があったが、急いで変更する必要がない点、費用も予算化されていない点が指摘され、さらに検討することとした。

6. 地球科学総合研連問題について

JSCでは研究の相互連絡をよくするため、総合研連を作るという方針で予算要求をすることになった。

地球化学・宇宙化学合同委員会が研連に昇格した場合、固体地球科学総合研連(地学四研連)のどちらに所属するかについて本会の意見が求められている。本会としては来年6月までに回答する必要があるため、次回評議員会で討議することをきめた。

日時 1975年2月15日(土)
場所 東京学士会館本郷分館(18名出席)
報告

1. JSC関係

- ・IAGC加盟分担金が来年度から政府予算として計上された。
- ・政府機構不拡大方針のため、地球化学・宇宙化学研連の新設は認められなかった。また、総合研連構想も予算的には認められなかった。
- ・第4部に地球化学・宇宙化学合同小委員会の継続設置が認められた。その連絡役として三宅評議員が指名された。

2. IAGC関係

第2回国際元素の起源と分布シンポジウムが1977年5月パリで開催される予定。

各委員会報告

1. 極地問題委員会

- ・17次越冬隊には地球化学関係の隊員は参加しない。したがって、継続観測は医学、生物学分野よりの参加隊員に依頼することとした。
- ・18次越冬隊(1976年11月出発)には地球化学関係から1名の参加が予定されているので、観測計画および参加隊員を学会としても考えてゆく必要がある。
- ・外国基地派遣関係(国費)では次回(1975~1976)

1975 年地球化学討論会講演申込用紙 (6 月 30 日メ切)

(ABCともれなく記入して下さい。発表者の頭に○印)

A
プログラム用

希望部門 (いずれかに○をつける)	番号 *	氏 名 (所属略記)	
課題, 一般	()		
題 目	(200 字以内で裏面の上半分に要旨を記入して下さい。)		

* 印は記入しないで下さい。

B
委員会控用

希望部門	番号 *	氏 名 (所属)		受 理
課題, 一般	()			* 月 日
題 目		講演時間	分	スライド枚

* 印は記入しないで下さい。

C
返 送 用

番号 *	氏 名 (所属略記)
()	
題 目	



殿

要旨集原稿用紙送り先を
記入して下さい。



東京都世田谷区深沢 1-1-1

東京都立大学理学部

一九七五年地球化学討論会準備委員会

半 谷 高 久 宛

申込書郵送先

は日本から地球物理(地震)関係2名の予算が組まれている。しかし、必要あれば地球化学関係から1名の参加が考慮される可能性がある。

・南極観測の隊員人選に関して、極地研究所では専門委員会を通じて人選しており、学会宛の公文書による依頼は考えていないとの意志表示があった。

・本年4月5日に南極関係の報告会をかねて seminar を気象研究所で開催する予定である。

2. 行事委員会

・2月例会は久城育夫博士の講演を予定していたが、都合により、6月に予定していた黒田和夫博士の講演に変更し、本日例会を東大理学部化学教室講義室で開催した。

3. 会則検討小委員会

・本日第3回の委員会を開き案を作成した。

4. 編集委員会

・G. J. Vol. 8, No. 4 は現在印刷中である。

・「地球化学」(環境問題特別号)は3月中旬に発刊予定である。

・「地球化学」1975年号は昨年6月例会(南極問題)本年2月例会(黒田和夫博士の講演)を内容とし現在編集集中である。

5. 庶務関係

3月10日に JSC と学協会とのこん談会が開催される。

議 題

1. 役員選出について

2月10日に第1回選挙管理委員会を開催し、山県登委員を委員長に選出した旨の報告があり、資料のように選挙事務をすすめることを了承した。また、

地区別定員については、従来の選出方法を調べ、再検討することになった。

2. 会則改訂について

会則検討小委員会より改訂案(資料配布)につき説明があった。主な改訂点である細則第6条[III]評議員の追加選出、第8条の評議員の重任問題について討議されたが、結論は得られず、次回評議員会でさらに継続審議することになった。

3. 1975 年度討論会について

行事委員長より本年度は都立大学半谷評議員が世話役となり、東京で開催することになった旨の経過報告ののち、世話人半谷評議員の提案にもとづき、討議の結果、1975年度討論会は10月13, 14, 15日の3日間(後日、10月23, 24, 25日の3日間に変更)、八王子大学セミナー・ハウスで開催すること。また討論課題は「宇宙物質の化学」とすることを決定した。

4. 財政問題

1974年度会計決算報告(資料配布)、西村監事の監査結果の報告を承認した。

Vol. No. 1 100部の増刷のための予備費使用が承認された。

5. G. J について

増田委員長より配布資料(ページチャージ等に関する)説明があった。討議の結果、財政委員会と十分協議したのち、両委員会合同で再提案することが求められ、継続審議となった。

6. ニュース関係

70号が発行とりやめのため、71号を70・71号とすることをきめた。

日本学術会議からの報告とお知らせ

第 67 回 総 会 報 告

第10期の最初で通算67回目の総会が1月20日から3日間六本木の日本学術会議大講堂で開かれた。

沖縄県在住の科学者として伊藤嘉昭(沖縄県農業試験場)及び大城立裕(沖縄県沖縄史料編集所)の両氏が9期と同様オブザーバーとして参加された。

初日の総会は午前9時36分に成立し事務局長が会長の選出まで議長職務を行なった。会長・副会長・選出に備えてあらかじめ10期会員選挙当選者の選挙公報等を配布した旨の報告があり、直ちに従来の方法にしたがって会長・副会長を選出することにした。その結果会長に越智勇一会員、人文科学部門からの副会長に高橋幸八郎会員、自然科学部門からの副会長に伏見康治会員を選んだ。つづいて午後からの各部会では部長・副部長及び幹事2名すなわち部の役員を選出して部会を終了した。その後運営審議会が開かれた。運営とよばれているこの会は、会長・副会長及び各部の役員計31名で組織されており、会議の運営に関する事項を審議するためのものである。

総会2日目は定刻9時30分に成立し直ちに9期の活動

全般に関する諸報告がはじまった。9期の会長・副会長からそれぞれ所管事項について報告があった。とくに野村平爾前副会長からは昭和50年度政府予算案において本会議予算の若干の増があり、49年度の会員選挙に関する臨時的経費を除けば28%増になることが報告された。

つづいて各部及び6つの常置委員会の報告が行なわれた。これらの報告に対しては質問も多かった。特別委員会の報告は総会3日目に行なわれることになった。9期の審議は8期のまとめ「70年代以降の科学技術について」で展開された基本的な考え方すなわち人間の尊厳に基づいた清新な科学・技術政策の樹立に寄与するため多くの新しい特別委員会が設けられた。その成果として環境問題、科学の基本問題、産業・国民生活、都市・地域・国土問題の諸特別委員会から、人間性と科学、人間の生命、能力、科学者と平和、社会福祉、資源・エネルギー、物価、国土開発に関する提言など従来の期には見られなかった新しい報告があった。

各部各委員会の報告には10期への引き継ぎ事項がつねに含まれており、9期をひきついで10期の活動を行なっていくことができるよう配慮されている。

総会2日目の最後に常置委員会・特別委員会の設置に

関する申合せを行なった。常置委員会はその名の通り各期を通して常置されている委員会である。創立25周年を前期に迎えた学術会議としては、今後の活動を新しく発展させるため、そのあり方、とりあげるべき課題等を再検討し、きたる68回総会で今期の常置及び特別委員会を設置することにした。このためさしあたっては国際事業に関する特別委員会のみ従来通り設置することとし、一方、常置委員会の委員は各部から4名ずつ選出してほとんど全会員が10期の活動のあり方、とりあげるべき課題、設置すべき常置・特別委員会などの審議にあたることにした。またこれらに関する各部・各常置委員会の意見を集約しながら原案作成に資するため、運営審議会付置委員会検討小委員会を設けることにした。

3日目午後の総会では「瀬戸内海における重油流出事故による被害情況の調査・研究に関し、緊急に予算措置を講ずること（要望）」を政府にだすことにした。この「要望」の審議に際して多くの会員から積極的な発言があり、事故に対する調査資料の整備とその中間の報告を望む意見が多く述べられた。

学術会議ではすでに9期において国際環境保全科学会議の開催を決定していたが、今回会長・事務局の努力で会議開催の経費の一部が政府予算案に計上され、名実ともに学術会議が主催する国際会議となった。これにともない全会員の協力のもとに会議を成功させることを申し合せた。この申合せの審議に際して、会議開催自身を自己目的化して会議の精神と成果とを国の内外に返すことを忘れないよう、また経費の募金に際しては思わぬそりを招くことのないよう留意すべきであるという意見が述べられた。また自然科学者は勿論人文・社会科学者もまたその学問的業績によって会議に寄与することができるよう配慮する必要があることが力説された。

ついでオブザーバーの両氏から沖縄県の学術研究の深刻な現状における問題点を、歴史の資料と農業研究を例として報告された。最後に10期の学術会議活動全体に関する意見が活発に交換されて3日間の総会を終えた。

出席会員数は209名中それぞれ206、199及び195名であった。
(日本学術会議広報委員会)

「科学・技術の基本的なあり方」について（申合せ）
昭和49年10月24日
第66回総会

科学者、技術者は科学・技術を不断に発展させるという任務を負っている。したがって、科学・技術の研究、開発に努力することが科学者、技術者の第一義的な責務であることはいうまでもない。

かえりみれば、過去四半世紀における科学・技術の発展はまことに驚嘆すべきものがあるが、他面においてその研究、開発の成果の無視、乱用及び悪用に加えて、不測の事態の発生もあり、世界平和、人類の生存と福祉、及び人間環境に及ぼす悪影響も黙視しえないほどに増大している。この影響は特に我が国において著しい。

このことは、科学・技術の正しい発展とその成果の社会への還元に対して責任をもつ科学者、技術者にとって社会的責任をますます重いものにしつつある。

このような科学者、技術者の社会的責任に対する反省

はユネスコの「科学研究者の地位に関する勧告」などにも見られるように、近來、全世界の共通の関心事となっている。

我々は日本学術会議が創設以来堅持してきた立場に基づく「科学研究基本法」の制定勧告など広く科学者、技術者の協力を得て策定してきた諸見解が、将来の我が国における科学・技術の正しい発展を図るうえでの一般的規範になりうるものと考えらる。

ここに、本会議創立25周年にあたり、本会議が従来とってきた科学・技術の基本的なあり方に関する諸見解を70年代半ばの現時点において、次のように取りまとめた。我々は将来、ここに現われた精神に基づいた、「科学・技術憲章」(仮称)が策定されることを希望する。

今後、広範な科学者、技術者が、ここに提示する(案文)を一つの資料として、積極的な論議を展開し、将来何らかの形で取りまとめられることを期待する。

「科学・技術の基本的なあり方」(案文)

第1 科学・技術の基本目的、社会的任務及び成果の利用
(科学・技術の基本目的)

1 科学は人文、社会、自然に関する真理の探求を基本目的とし、技術は人間生活を豊かにすることを目的とする。

科学と技術は、人類の英知の所産であり、固有の創造である。したがって科学と技術は本来的に人類社会と文明の発展に寄与するものでなければならない。

(科学・技術の社会的任務)

2 科学・技術は、本来人間の尊厳を保障する社会を建設すること、国民の生活を豊かにすること、人類の福祉を増進すること、世界平和の達成に貢献すること、及び文化の向上に寄与することをその社会的任務とする。

(科学・技術の成果の利用)

3 科学・技術の社会的任務が果たされるためには、その成果が行政、産業及び国民生活に正しく反映、浸透させることが必要である。

科学・技術の成果の無視、乱用、悪用は、科学・技術の基本目的及び社会的任務に反するだけでなく、人類生存に脅威をもたらすものであるから、敢にこれを防止する努力が払われなければならない。

第2 科学・技術の正しい発展のための基本的諸条件
(民主・自主・公開の原則)

4 科学・技術の正しい発展のためには、研究者の衆知の結集、自主性の尊重による創意の発揮及び成果の公開が保障されなければならない。すなわち、民主、自主、公開の3原則が厳守されることが緊要である。

(諸科学間の調和ある発展と協力)

5 科学・技術の正しい発展のためには、人文科学、社会科学、自然科学の全般にわたって調和ある発展が行なわれなければならない。また、諸科学領域相互間の協力、更に学際的な連携、諸科学の総合化が必要である。

(国際的な交流と協力)

6 科学・技術の正しい発展のためには、国際交流と

国際協力が不可欠である。

科学・技術の国際交流と国際協力は、世界平和と人類福祉への貢献を旨とし、科学者、技術者の立場に立って、自主性と対等の立場の尊重のもとに行なわれるべきであり、かつ、その成果は公開されなければならない。

第3 科学者、技術者の社会的責任

(科学者、技術者の目的・任務に関する責任)

7 科学者、技術者は、その従事する研究及び開発が、人道的、社会的、自然的等の見地からみて、科学・技術の基本目的と社会的任務につねに正しく対処する社会的責任をもつ。

(科学者、技術者の予測に基づく責任)

8 科学者、技術者は、科学・技術の利用及びその将来への展望については、本来予測しうる専門的な知識と能力を持つものであるから、科学・技術の成果の無視、乱用、悪用によって悪影響がもたらされないよう努力する社会的責任を負うものである。

(科学者、技術者の共同体の責任)

9 科学者、技術者の社会的責任は、個々の科学者、技術者にあるばかりでなく、科学者、技術者の共同体においても負うべきものである。

第4 科学・技術の正しい発展と国の責任

(科学・技術の条件整備)

10 科学・技術に関する諸施策は、科学・技術の正しい発展をはかり、かつ、その基本目的と社会的任務が果たせるような諸条件を整備することを基本としなければならない。

(科学者、技術者の意見の尊重)

11 科学・技術上の施策に誤りなきを期するためには、科学者、技術者の総意を代表する機関及び団体から意見を聴取し、これを尊重する制度を確立しなければならない。

(科学者、技術者の社会的地位)

12 科学者、技術者は、その社会的任務を果たすにふさわしい社会的地位特に諸権利、労働条件、待遇等が保障されなければならない。このため、必要な措置が常に講じられなければならない。

第12 回理工学における同位元素研究発表会

上記会合が開催されます。

とき 1975年6月18日(水)～20日(金)

ところ 機械振興会館
東京都港区芝公園3—5—8
(東京タワーとなり)

国際環境保全科学会議(HESC)開催のお知らせ

次の内容で開催されるとの案内が来ています。

会議の期間 1975年11月16日(日)登録、17日(月)開
会行事、18日(火)～21日(金)分科会*、22日(土)～
23日(日)現地視察(数班)、24日(月)～26日(水)
全体討論、閉会行事

会議の場所 国立京都国際会館(京都市左京区宝池)

会議参加費 1人1万円(ただし、プロシーディングス
の費用は含まない)

参加希望締切り 1975年8月末日

問い合わせ先 日本学術会議事務局調査課
(☎106) 東京都港区六本木7—22—34
TEL (03) 403-6291

*分科会の構成は次の様になっています

第I 分科会

1 生態系における人間の影響 2 環境毒物学
3 生産・消費過程における再循環と閉鎖系

第II 分科会

4 環境権 5 環境アセスメントと政策問題 6 環境
保全のための法技術

第III 分科会

7 環境と開発 8 開発国・発展途上国に関する諸
問題

第IV 分科会

9 地域に総合化された諸問題 10 地球的規模にお
ける環境問題 11 文化環境の問題

第V 分科会

12 環境破壊監視の方法論 13 事前評価・回復
14 環境情報・教育のコミュニケーション 15 学術
研究課題の優先順位

新 刊 案 内

書 名 「桜島火山の研究」山口謙次博士遺稿論文
鹿児島湾周縁地域及び桜島火山の地質学的並びに
岩石学的研究(B5判、上製本ケース入 145頁)
アーツ衛星による桜島中心のカラー合成写真口絵

発行 日本地学教育学会 発行日 昭和50年2月1日

頒 価 3,000円(送料当方負担)なるべく振替でお願
いします。

申込先 東京都青梅市師岡町3—15—04(☎198)、私書箱
青梅郵便局34号 多摩地質学研究所(振替 東京
194649番)

取扱人 東京都小平市上水本町1515(☎187)
電話 0423 (21) 4867

「化学抄報」誌購読のおすすめ

「化学抄報」は、化学関係報文要旨の速報誌として、昭和48年1月から27学協会誌の抄録を開始し、同年6月には57学協会誌に拡大しました。その結果、昭和48年には毎月2回、計24冊(総ページ3072)に7972件の抄録を行ない、これは Chemical Abstracts (CA) に抄録される日本文献の約8割に相当しました。

昭和49年には、学協会誌だけでなく、官民研究所・出版社発行のものを含め計80誌の化学関係主要論文を抄録し、網羅性を約9割に高めております。また学協会誌配布とはほとんど同時に本誌が配られ、CA 80分類に従った分類索引が付いていて専門に応じて必要箇所のみを通読できる特長があり、関係科学者、技術者必読の情報誌となっております。さらに本誌購読者に限り原報複写サービスを開始する予定ですから、つぎにより多数の方々の購読をおすすめします。

会費 本会会員は、団体会員年額1口20,000円(10口以上は割引制度あり)、個人会員(自宅宛送本の場合に限る)年額1口15,000円に割引きます。非会員は年額1口24,000円となります。

申込 〒101 東京都千代田区神田駿河台1-5 社団法人 日本化学会気付 化学情報協議会(電話 03-292-6161 担当 長久保)あて申込書をご請求下さい。

日本地球化学会入退会(1974年10月以降の分)

入会(入会順)

井上正美(富山大・薬),立川正久(滋大・教),梶川正勝(岐阜県衛生研),古田正次(愛知県公害調査センター),山本正視(大阪府水道部),富樫幸雄(地質調),大塚治子(愛知県公害調査センター),窪田康宏(三菱金属),植村斉(東海大・海洋),渡辺吉博(同和鉱業),宮野敏(東大・理),三木孝(九大・理),桜本勇治(大阪市大・理),清水洋(神戸大・理),飛田修作(山梨県立衛生研),石井猛(兵庫県公害研),小西敏樹(北大・水産),松本源喜(都立大・理),R.D. Russell (U.B.C.), 酒井幸子(群馬県衛生研),西山孝(京大・工), M.P. Semet (Inst. Phy. Globe), B. Bason (Smithsonian Inst.)

退会(退会順)

高村正幸, 高橋教宣, 矢島久美子, 藤田一美, 小森長生, 加藤忠蔵, 松田恵三, 三木勇

会員訃報

本会正会員 松本 隆氏(岡山大学温泉研究所)は、昭和49年4月17日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

シンポジウム“水中の有機汚染物質の
同定と分析”の開催について

地球上の環境汚染問題と関係して、有機物質の環境分析化学の研究も進んできているが、このほど水中有機汚染物質に関する意見交換および交流をはかることを目的としてシンポジウムが開かれる。

このシンポジウムは1975年11月30~12月5日 Mexico City (Mexico) で開催され、アメリカ化学会環境化学部門が主催する。とりあげられるテーマは主として水質汚染で、特に水質汚染に関係した有機化合物の同定の問題である。以下に内容を記す。

1. サンプルの採取と調製
 - a) サンプルの採取と保存
 - b) 有機化合物の抽出と濃縮
 - c) クロマトグラフによる相互分離法
2. 機器分析と湿式化学分析
 - a) 特定有機汚染物質の定性および定量分析 (GC-MS, GC-IR, NMR, etc.)
 - b) 汚染源の決定
 - c) 汚染物質のゆくえと影響の決定
 - d) 特定有機物質のモニタリング
 - e) コンピュータを利用した同定と分析

Symposium Chairman: Dr. L. H. Keith.
Environmental Protection Agency, Southeast
Environmental Research Laboratory
College Station Road
Athens, Georgia 30601
U. S. A.

(石渡 良志)

学会事務局 (166) 東京都杉並区高円寺北4-35-8
気象研究所 地球化学研究部
電話 (03) 337-1111 内線 75
振替口座 東京 38679
日本地球化学会

ニュース (213) 川崎市高津区久本135
発行所 地質調査所 地球化学課
倉沢 一
海洋地質部
松本 英二
電話 (044) 866-3171

日本地球化学会ニュース

No. 74.

1975. VIII. 20

—学会プログラム特集号—

1975年度 地球化学討論会

主催 日本地球化学会
共催 日本化学会
会期 1975年10月23日(木)~10月25日(土)
会場 大学セミナーハウス

50-8.27
図書館

日程表

日	8:30	12:00	13:00	14:00	14:30	16:00	17:30	18:00	19:30
23日 (木)				受 付		一般討論 A B C			
24日 (金)		課題討論 一般討論 A B C			特別講演 A		総会 A		懇親会 食堂
25日 (土)		一般討論 A B C							

A会場……講堂
B会場……大学院セミナー館
C会場……長期研修館セミナー室
懇親会……本館食堂

第1日 10月23日(木)

A会場

一般討論

—(14:30~15:30)—

座長 西村 進

A1 角閃石の水への圧力の影響

(信州大理, 北大理*, 気象庁海洋**, 東工大理***) 黒田吉益, 針谷宥*, °鈴置哲朗**, 松尾禎士***

A2 人工 olivine 単結晶における不純物分配

- (東北大) °武居文彦, 一國雅巳, 小林孝彰
A 3 ニーラゴンゴ産玄武岩の斑晶—石基間の元素の分配
(東学大化, 筑波大化*) °二宮修治, 小沼直樹*
A 4 南アメリカキンバーライトの mica nodule および peridotite nodule 中に共存する phlogopite と richterite の重水素存在比
(信州大理, 気象庁海洋*, 東工大理**, 東北大理***) 黒田吉益, 鈴置哲朗*, °松尾禎士**, 青木謙一郎***

—(15:30~16:30)—

座長 鈴 置 哲 朗

- A 5 かんらん岩捕獲岩からみた上部マントルの化学組成
(東北大理) 青木謙一郎
A 6 地球化学標準試料 GSJ, JG-1 と JB-1 の化学成分 (1975)
(地質調) °安藤 厚, 倉沢 一, 大森貞子, 関根節郎
A 7 福岡県二丈町箱島産花崗岩の核分裂片飛跡年代
(九大理) 勝部博充, 宮崎 章, 岡口雅子, °大崎 進, 高島良正
A 8 本邦塩基性深成岩類の Sr 同位体比
(地質調) °柴田 賢, 石原舜三

—(16:30~17:30)—

座長 小 沼 直 樹

- A 9 日本とその周辺の鉛同位体比の特異性
(東大震研) 佐藤和郎
A 10 in situ マグマ分化における微量元素と Sr 同位体の挙動
(地質調, 東大理*) °倉沢 一, 藤巻宏和*
A 11 ニューメキシコにおける火山岩の帯状分布と微量元素
(京大教養) 西村 進, 池田 隆
A 12 プレート運動よりみた火山岩の化学組成
(名大理) 杉崎隆一

B 会場

一 般 討 論

—(14:30~15:30)—

座長 藤 貫 正

- B 1 母液中に溶存する有機物質の magnesian calcite 生成への影響について

- (名大水研, 愛教大地*) °北野 康, 金森暢子, 吉岡小夜子*
B 2 水溶液中に懸濁する aragonite から calcite への変質機構
(名大水研, 愛教大地*) 北野 康, 金森暢子, °吉岡小夜子*
B 3 炭酸カルシウムによるリン酸の共沈殿について
(名大水研, 島根大文理*) 北野 康, °奥村 稔*, 井戸垣正俊*
B 4 炭酸カルシウムへのカドミウムの吸着
(名大水研) 北野 康, 金森暢子, °黒沢亮子

—(15:30~16:30)—

座長 寺 井 稔

- B 5 Sr を含む (Ca, Mn) CO₃ の生成とその性質
(東北大教養, 東北大理*) 一國雅巳, °石神 工*
B 6 炭酸塩岩のフッ素含量
(群馬大工) 赤岩英夫, °相沢省一
B 7 新潟県赤谷地区炭酸塩岩石の化学組成
(地質調, 東海大理*) °藤貫 正, 五十嵐俊雄, 三上篤子*
B 8 陸性マンガンノジュールの粒度による微量成分の分布
(琉球大理工, 名大水研*) °平良初男, 兼島 清, 北野 康*

—(16:30~17:30)—

座長 兼 島 清

- B 9 南大東島の炭酸塩物質中の微量成分
(都立大理, 立教大原研*) °大出 茂, 太田直一, 戸村健児*
B 10 奄美群島喜界島における炭酸塩堆積物中の石灰藻の続成作用
(広島大理) 三井さち子
B 11 石灰岩の風化機構—石灰岩地域の土壌形成—
(琉球大理工, 名大水研*) °渡久山章, 北野 康*
B 12 Aragonite から Proto-dolomite への変質
(琉球大理工) 大森 保

C 会場

一 般 討 論

—(14:30~15:15)—

座長 鈴 木 幸 喜

- C 1 塩酸水溶液と過剰の火山岩の反応 (1)
(東工大理, 東邦大理*) °吉田 稔, 吉田征子°

- C 2 ガラスからのアルカリ金属イオンの溶出
(東邦大教養, 名工大*) °高松信樹, 今橋正征, 神谷 宏*
C 3 兵庫県湯村温泉の泉質とかん養機構
(地質調) °坂巻幸雄, 黒田和男, 望月常一

—(15:15~16:00)—

座長 池 田 長 生

- C 4 水酸化アルミニウムのケイ酸の吸着とシリカの生成
(九大理) °横山拓史, 樽谷俊和
C 5 熱水系におけるセレンの挙動
(東大理) 鹿園直建
C 6 わが国における温泉および鉱泉のトリウム含量
(中部工大, 名工大*) °下方敏蔵, 神谷 宏*, 尾崎敦子

—(16:00~16:45)—

座長 神 谷 宏

- C 7 宮城県鳴子温泉について (東鳴子地域)
(東北学院大工) 鈴木幸喜
C 8 トリチウム, ジュウテリウム濃度測定による那須温泉の地球化学研究
(東教大理) 池田長生, °田中霧子, 小泉盛人, 関 李紀
C 9 温泉水のトリチウム濃度とジュウテリウム濃度の相関について
(東教大理) 池田長生, 田中霧子, °小泉盛人, 関 李紀

—(16:45~17:30)—

座長 吉 田 稔

- C 10 硬石こうと水溶液との間のストロンチウムの分配
(東北大教養) 一國雅巳
C 11 熱水温度における BaSO₄—H₂O 系の酸素同位体の分配
(東工大理, ニュージーランド D.S.I.R.*) °日下部実, B.W. Robinson*
C 12 伊豆地方の温泉水中の SO₄²⁻ の同位体組成について
(名大理) 水谷義彦

第2日 10月24日 (金)

A 会場

課題討論 「宇宙物質の化学」

コンビーナー 本 田 雅 健
—(8:30~10:25)—

- A 13 宇宙物質の化学
(鹿児島県) 吉岡亀太
A 14 沼貝隕石について
(理研, 北大理*) °島 誠, 八木健三, 岡田昭彦
A 15 星間分子の化学
(電通大・化学) °中川直哉, 坂田 朗
A 16 星間塵の生成と化学組成
(電通大) °坂田 朗, 御子柴広, 富塚克己, 木村 宏, 中川直哉
A 17 ⁵³Mn より見た月表面層の動き
(立教大理 (東大核研*, 東大物性研**)) °西泉邦彦, 今村峯雄*, 本田雅健**
A 18 月試料から古代隕石成分の推定
(日本分析センター, エンリコフェルミ研シカゴ大*) °樋口英雄, John Morgan*, Edward Anders*

休 憩 20 分

—(10:45~12:30)—

- A 19 炭素質コンドライト中の核分裂生成 Xe の先祖 : 微量元素の研究からの試み
(日本分析センター) °樋口英雄, (エンリコフェルミ研・シカゴ大学) J. Morgan, J. Gros, 高橋 宏, E. Anders
A 20 コンドライト構成物質中のウラン及び希土類元素の分布
(東大物性研) 小山康直, 海老原充, 本田雅健
A 21 Allende 隕石構成物質中の元素の分布と同位体比
(東大物性研) °仁藤 修, 本田雅健
A 22 アイエンデ隕石鉱物の化学組成と同位体組成
(学習院大, NASA, 筑波大・化*) 長沢宏, °小沼直樹*

A 会場

特 別 講 演

—(14:00~15:00)—

座長 本 田 雅 健

- S 1 宇宙線と元素の起源
(立教大理) 伊藤謙哉
—(15:00~16:00)—

座長 半 谷 高 久

- S 2 都の当面する環境問題
(東京都公害研) 柴田徳衛

B 会 場

一 般 討 論

—(8:30~9:15)—

座長 杉 浦 吉 雄

- B13 降水中の化学成分の地域性
(成蹊小, 東北大教養*) °竹内丑雄, 一國雅巳*, 鈴木勸子*

- B14 大気・降水中のアルデヒド含量について
(気象研, 地球化学研究協会*) °伏見克彦, 杉村行勇, 川村 清, 三宅泰雄*

- B15 降水中の窒素化合物について
(北大・水) 角皆静男, °品川高儀

—(9:15~10:00)—

座長 寺 田 喜久雄

- B16 東京における降水中の Pb-210
(地球化学研究協会, 気象研*, 東海大海洋**) 三宅泰雄, °金沢照子*, 葛城幸雄*, 杉村行勇*, 植村 斉**

- B17 中国核実験(第15, 16回)による ⁹⁰Sr 降下
(地球化学研究協会, 気象研*) 三宅泰雄, °葛城幸雄*

- B18 南極基地周辺における放射性降下物 ¹³⁷Cs の測定
(横国大教育) 村山治太, °草茅吉治, 石塚安広, 林 良雄, 長原幸雄

—(10:00~10:45)—

座長 岡 部 史 郎

- B19 茨城県東海村沖海水中における沿岸流出水の分布
(気象研) °杉浦吉雄, 桜井澄子

- B20 北太平洋西部海水中的セレン
(気象研, 地球化学研究協会*) °鈴木 歎, 杉村行勇, 三宅泰雄*

- B21 太平洋海水のプルトニウム含量について
(地球化学研究協会, 気象研*) 三宅泰雄, °杉村行勇*

—(11:00~12:00)—

座長 北 野 康

- B22 西部北太平洋上の表面海水中的 ¹⁴C 濃度について
(学習院大) °亀田光夫, 木越邦彦

- B23 海水の全アルカリ度について
(名大水研) 金森 悟

- B24 各種生物性炭酸塩鉱物の海水に対する飽和度

- (琉球大理工, 名大水研*) °渡久山章, 北野 康*
B25 海洋における炭酸物質系からみた海水の滞留時間
(地球化学研究協会, 気象研*) 三宅泰雄, °猿橋勝子*

—(12:00~13:00)—

座長 平 良 初 男

- B26 北太平洋西部海水中的ラジウムとラドンの分布
(地球化学研究協会, 気象研*) 三宅泰雄, °杉村行勇*, 猿橋勝子*

- B27 海水中的懸濁粒子の粒子束と化学成分への影響
(北大水産) °南川雅男, 角皆静男, 有田英之

- B28 内湾の海底堆積物のモリブデン
(東海大海洋) °知名定則, 岡部史郎

- B29 JG-1, JB-1 及び海洋堆積物のヒ素含量
(金沢大理) °寺田喜久雄, 奥田清明, 木羽敏泰

C 会 場

一 般 討 論

—(8:30~9:30)—

座長 小 倉 紀 雄

- C13 環境中の多環芳香族炭化水素に関する研究(第7報) 岩国地先堆積物中の多環芳香族炭化水素の分布
(都立大理) °松島 肇, 半谷高久

- C14 河川水中のクロロホルム可溶性物質の分子量分布
(都立大理) °小椋和子, 安孫子春彦, 萱島 信

- C15 植物マコモ及び泥炭中のリグニン関連フェノールカルボン酸について
(神奈川県立衛生短大, 都立大理*) °片瀬隆雄, 半谷高久*

- C16 内湾の底土中における有機酸生成について
(愛媛大理・臨海) 二階堂 要

—(9:30~10:30)—

座長 二階堂 要

- C17 琵琶湖 200m の柱状堆積物試料中の有機溶媒可溶性物質について
(都立大理) °小椋和子, 石渡良志

- C18 堆積物における脂質の存在状態とその変化及び起源について
(名大理) °西村弥亜, 中井信之, 小山忠四郎

- C19 初期堆積過程におけるステロール化合物の挙動
(名大水研) °西村弥亜, 小山忠四郎

- C20 湖底堆積物における不飽和脂肪酸の位置異性体について

ついて

(名大水研) °松田ひろみ, 小山忠四郎

—(10:30~11:15)—

座長 牧 真 一

- C21 現世堆積物中のノルマルパラフィン
(地質調) °米谷 宏, 大場信雄

- C22 木崎湖底層における有機物の無機化について
(名大水研) 松永捷司

- C23 湖水中での有機物の分解速度
(名大水研) °杉浦敏昭, 半田暢彦

—(11:30~12:15)—

座長 秋 山 雅 彦

- C24 湖底堆積物における有機物の分解
(名大水研) °半田暢彦, 松永捷司

- C25 精進湖湖底堆積物の性状
(山梨衛公研) °梶 充紀, 笠井和平, 中島郁子, 庄司三和, 田中正二郎

- C26 湖底堆積物におけるメタン生成速度からみた微生物の相対的活性度の鉛直変化
(名大水研) 小山忠四郎

—(12:15~13:00)—

座長 半 田 暢 彦

- C27 石油生成モデルとしての現世堆積有機物の熱分解実験
(都立大理, カリフォルニア大*) °石渡良志, I.R. Kaplan*

- C28 四万十果層群の堆積岩の可溶性および不溶性有機物(その2・静岡)
(地質調) °牧 真一, 永田松三, 西村富子

- C29 関東地方第四系産貝化石中におけるアミノ酸のラセミ化
(北大理) 秋山雅彦

第3日 10月25日(土)

A 会 場

一 般 討 論

—(8:30~9:15)—

座長 鎌 田 政 明

- A23 小笠原硫黄島の火山ガスと温泉
(東工大理, 上智大理工*) 小沢竹二郎, 平林順一, 小坂丈予, 高江洲登*

- A24 薩摩硫黄島の同位体地球化学的研究 1. 火山ガス

の起源について

(岡大温研, 東工大理*, 地質調**) °松葉谷治, 上田 晃, 日下部実*, 松久幸敬**, 酒井 均, 佐々木昭**

- A25 薩摩硫黄島の同位体地球化学的研究 2. イオウの同位体の分配
(岡大温研, 東工大理*, 地質調**) 上田 晃, 松葉谷治, 日下部実*, 松久幸敬**, 酒井均, 佐々木昭**

—(9:15~10:15)—

座長 小 坂 丈 予

- A26 桜島火山南岳からの二酸化イオウの放出量と各火山発散物の放出量
(鹿児島大理) 鎌田政明

- A27 1914年桜島火山活動時の火山灰の放出量と鹿児島市に降下した火山灰の化学組成
(鹿児島大理) °鎌田政明, 坂元隼雄

- A28 地熱地帯の蒸気系における化学的探査 —Soil air 中の Hg と CO₂ の利用
(九大温研) °古賀昭人, 野田徹郎

- A29 地熱変質地帯における揮発性成分の挙動と分布
(九大温研, 地質調*) °野田徹郎, 古賀昭人, 川村政和*

—(10:15~11:15)—

座長 赤 岩 英 夫

- A30 浅間火山における Cs/Rb 値とその解釈
(京大理) 岡本健二

- A31 堆積火山灰の風化過程におけるフッ素の挙動
(東工大地) °高谷常人, 富田毅, 小坂丈予

- A32 植物中における亜鉛, カドミウム, 鉛の分布
(青学大理工) 千葉直樹, °平尾良光, 木村 幹

- A33 地球化学図作成に関する基礎的研究
(秋田大, 秋田工高*) °椎川 誠, 久保田秀紀, 小野鉦二*

B 会 場

一 般 討 論

—(8:30~9:15)—

座長 椎 川 誠

- B30 中国地方の古生層泥質岩中の微量成分
(香川大教育) 稲積章生

- B31 グリーンタフ堆積岩の陽イオン交換平衡定数
(函館工専) 水上正勝

B32 カーボンブラックと沈殿カルサイトの炭素同位体交換実験について
(名大) 和田秀樹

—(9:15~10:00)—

座長 杉 崎 隆 一

B33 気仙沼市大島の地球化学的研究
(山形大理) °入江敏勝, 佐々木徹
B34 中生層・古生層中の菱マンガン鉱の希土類元素について
(神戸大理) °清水 洋, 増田彰正

B35 真空圧砕法による流体包有物の同位体比
(東大理, 岡大温研*) °服部恵子, 酒井 均*, 木島宣明*, 松葉谷治*

—(10:00~11:00)—

座長 綿 拔 邦 彦

B36 昭和基地附近の塩湖について
(横国大教育) 村山治太
B37 南極ラングホブデ地区ぬるめ池の重金属含量について
(愛知県公害調査センター) 佐野方昂
B38 南極ドライバレー地域の塩湖の水の安定酸素同位体組成
(名大水研) 加藤喜久雄
B39 南極ドライバレー塩湖化学組成についての成因的考察
(北大水) 西村雅吉, °中谷 周

C 会 場
一 般 討 論

—(8:30~9:30)—

座長 後 藤 達 夫

C30 群馬県万座川水系各河川における流量と化学成分との関係
(上智大理, 東工大*) 野村昭之助, 小坂知子, °沢宣昭, 小坂丈予*
C31 天然水の水質を通してみた天龍川上流流域の岩石崩壊について
(宮大工, 名大水研*, 名大工**) °中村誠佑, 北野 康*, 西畑勇夫**
C32 全蒸発残留物—化学成分の相関性について 一相関係数の検討—
(香川大教育) 糸山東一
C33 沖縄本島河川の水質とその起源

(沖縄県天願浄水場) 遠山英一

—(9:30~10:15)—

座長 入 江 敏 勝

C34 天然記念物塩川の湧水機構
(琉球大理工) °兼島 清, 平良初男, 渡久山章, 大森 保
C35 多摩川下流域の地盤隆起現象に対する地球化学的研究
(東大理, 学習院大理*) °脇田 宏, 田中邦也*, 木越邦彦*
C36 地すべり地地下水の CO₂ 分圧について
(京大防災研) 吉岡龍馬

—(10:15~11:00)—

座長 山 県 登

C37 貯水池における微量重金属元素の分布
(愛知県公害調査センター) °大塚治子, 古田正次, 荒川幸夫, 高井義治
C38 河川, 湖沼における濁質粒子の挙動
(愛知県公害調査センター) °古田正次, 田中 進, 大塚治子, 荒川幸夫, 高井義治
C39 水月湖, 湖水, 間隙水, 堆積物中のマンガンの分布
(名大水研) °増沢敏行, 北野 康

—(11:00~12:00)—

座長 一 国 雅 巳

C40 鉱山地帯からのカドミウムの流出
(公衛院, 理研*, 山形大理**) °山県 登, 島 誠*, 入江敏勝**
C41 堆石岩地帯における採掘および砕石行為に伴う重金属汚染について
(愛知県公害調査センター) °大沼淳一, 溝口清教, 川瀬正子, 今井伸一, 大池康夫, 松井和夫
C42 名古屋港水域での重金属の存在状態
(名古屋市公害研) °伊藤和夫, 小島節子, 長谷川恒夫, 成瀬洋児
C43 硫黄鉱山廃水のヒ素の挙動
(岩手大教育) 後藤達夫

総 会 10月24日(金)
特別講演終了後A会場で16:30より引きつづき行ないます。

懇 親 会 10月24日(金) 18時より本館4階食堂で行ないます。参加申込は23日(木)午後5時まで受付です。会費1500円

参加登録費 500円(学生無料)

要 旨 代 1500円(予約のとき)

会 場 大学セミナー・ハウス(☎192-03 東京都八王子市下柚木1987-1) TEL. 0426(76)8511(代表)

交 通 バス・国電中央線八王子南口より「柚木折返場行」に乗って、野猿峠(15分, 70円)で下車下さい。そこから大学セミナー・ハウス入口表示板にそって、大学セミナー・ハウスまで徒歩5分。

(八王子駅南口3番乗り場より柚木折返場行は朝夕, 1時間に5~6回, その他は1時間に4回ぐらい出ています。)

●京王線北野駅より「柚木折返場行」に乗って野猿峠で下車下さい。

タ ク シ ー ●国電八王子駅より600~700円位

●京王線北野駅より300~400円位

討論会世話人連絡先

☎158 東京都世田谷区深沢2-1-1
都立大学理学部 半谷高久
TEL. (03) 717-0111 内線 312

学会事務局 (166) 東京都杉並区高円寺北4-35-8
気象研究所 地球化学研究部
電 話 (03) 337-1111 内線 75
振 替 口 座 東 京 38679
日 本 地 球 化 学 会

ニ ュ ー ス (213) 川崎市高津区久本135
発 行 所 地質調査所 地球化学課
倉 沢 一
田 中 剛
電 話 (044) 866-3171

215-314

日本地球化学会ニュース

No. 75.

1975. XII. 20

国立国会
51.-1.22.
図書館

1975 年度日本地球化学会総会議事録

10月24日16⁰⁰～17⁰⁰ 八王寺大学セミナーハウス講堂で、会員70名出席のもとに行なわれた。当日の議長は名大水圏研北野康氏が選出された。

1. 会長挨拶
2. 大会委員長挨拶
3. 1974年度事業および収支決算報告が行なわれ、西村監査の監査結果の報告があり、承認した。(別掲)
4. 1975年度事業中間および収支中間報告が行なわれた。これに付ずいて財政委員長より会費値上げ増収分の使途について説明があった。編集委員長から、会誌発行状況に関する報告があった。
5. 1976, 77年度役員選挙結果が報告された。(別掲)
6. 1976年度事業計画および収支予算案を承認した。
7. 会則第6条の一部改訂を承認した。(別掲)
8. 学生会員については、評議員会で十分検討し、対策をすることが報告された。

1975 年度日本地球化学会総会日程

1. 開 会
2. 議長選出
3. 会長挨拶
4. 大会委員長挨拶
5. 1974年度事業報告および収支決算報告
6. 1975年度事業中間報告および収支中間報告
7. 1976, 77年度役員選挙結果
8. 1976年度事業計画案
9. 1976年度会計予算案
10. 会則の一部改訂
11. その他
12. 閉 会

1974 年度事業報告

1. 会員現況

	正会員	賛助会員	名誉会員	計
1973年12月末	734	20	1	755
入 会	58	1	0	59
退 会	11	4	0	15
1974年12月末	781	17	1	799

2. 委員会等開催数

総 会	1	講 演 会	1	極 地	1
討 論 会	1	財 政	2	将 来	1
評議員会	5	行 事	1	会 則	1
例 会	3	編 集	1		

3. ニュース発行 68, 69, 70/71, 計20頁

4. 会 誌 G. J. Vol. 7; 3, 4, Vol. 8; 1, 2, 3
論文22, Note 4, 303頁1100部
地化 Vol. 7/8合併号 論文2, その他,
101頁1000部

5. 学協会共催等

- 第11回理工学における同位元素研究発表会(共催)
高分子学会講演会(共催)
化学情報協議会(加盟)

6. 評 議 員 会

- 1974年2月16日(土) 東京学士会館本郷分館
6月8日(土) "
10月1日(火) 学習院大学輔仁会館
12月14日(土) 名古屋共済会館

7. 例 会

- 2月16日(土)(東大化学)(ニュースNo. 70, 71 参照 p. 1)
- 6月8日(土)(東大化学)(ニュースNo. 70, 71 参照 p. 2)
- 12月14日(土)(名大水圏科研)
地球内部におけるケイ酸塩化合物の相平衡
名大理 熊 沢 峰 夫
高層大気中の化学現象
名大・水圏科研 岩 坂 泰 信

講 演 会

- 9月5日(土)(東大化学)
・Public health hazards of lead pollution.
カリフォルニア工科大
C. C. Patterson

日本地球化学会 1976・77 年度
役員選挙結果

会 長	小穴 進也	(次)	藤永太一郎
副会長	本田 雅健	(次)	半谷 高久
評議員			
北海道:	室住 正世	中 部:	北野 康
	(次) 西村 雅吉		岡部 史郎
東 北:	青木謙一郎		寺田喜久雄
	(次) 一国 雅巳	(次)	中井 信之
関 東:	市川 新	近 畿:	桑本 融
	木越 邦彦		増田 彰正
	倉沢 一	(次)	藤永太一郎
	三宅 泰雄	中国・四国:	立川 涼
	小嶋 稔	(次)	松井 義人
	猿橋 勝子	九 州:	鎌田 政明
	杉村 行勇	(次)	樽谷 俊和
	杉浦 吉雄		
	田中 重男		
	鳥居 鉄也		
	山県 登		
	(次) 梶原 良道		

1975 年地球化学討論会報告

同討論会は去る 10 月 23 日 (木) 午後 2 時半より 10 月 25 日 (土) 正午にわたり、八王子にある大学セミナーハウスにて開催された。

若干の取り消しがあったが、一般討論合計 112 件、課題討論 (宇宙物質の化学) 10 件ならびに 特別講演 (宇宙線と元素の起源、伊藤謙哉氏; 都の当面する環境問題、柴田徳衛氏) 2 件がおこなわれ、活潑な意見交換があった。なお、参加状況は下記に示す通りである。

●参加者 (参加費 500 円、学生無料) 261 名 + α

内訳、宿泊者 132 名、参加のみ 129 名

●要旨集 (1500 円)

印刷数	350 部
販売数	316 部
寄 贈	9 部
	(事務局 3 部、本部 2 部、その他)
残 部	25 部

●懇親会 (1500 円) 出席者 141 名

以 上

日本地球化学会 1974 年度収支決算報告
(1974. 1. 1~12. 31)

収 入	円	(74 予算) 千 円
前年度繰越金	1,941,214	0
正 会 員 費	1,776,768 (89%)	1,738
賛 助 会 費	230,000	100
購 読 料	1,883,712	1,252
超過頁代・別刷代	1,342,348	1,040
広 告 代	0	150
寄付金 (秋田大)	140,000	—
刊行補助金 ('73)	270,000	270
銀行利息	15,368	—
合 計	7,599,410	4,550

支 出	円	(74 予算) 千 円
会誌印刷費	4,957,223	2,600
ニュース印刷費	215,600	160
郵 送 料	308,055	450
人 件 費	420,000	420
編 集 費	60,000	60
討論会補助金	100,000	100
委員会活動費	0	20
会場費・会議費	79,238	120
講 師 謝 礼	23,000	20
事 務 費	147,360	200
銀行等手数料	47,610	50
学術会議 25 周年 記念事業会など	12,500	350
次期繰越金	1,228,824	—
合 計	7,599,410	4,550

1976 年度事業計画

1. 総 会	1 回 (名古屋)
2. 討 論 会	1 回 (名古屋)
3. 例 会	3 回
	講 演 会 1 回
4. 評 議 員 会	4 回
5. ニュース発行	5 回 24 頁 1000 部
6. 会 誌 G. J.	Vol. 10; 1~4 200 頁 1,200 部
	地化 Vol. 10 40 頁 1,000 部

1976 年度 (1976. 1. 1~1976. 12. 31) 収支予算

支 出	千円	(1974 年度決算) 円
直接費		
基本運営費	50	23,000
学術の会合費	150	100,000
出版費	4,200	5,172,823
名簿出版費	280	0
発送通信費	600	208,055
編集費	100	60,000
回収不能損	320	—
直接費計	5,700	5,563,878
間接費	千円	
通信費	200	100,000
会議費	150	79,238
給与等	600	420,000
事務費	200	147,360
銀行等手数料	50	47,610
予備費	200	(雑) 12,500
間接費計	1,400	806,708
支出総計	7,100	6,370,586
		次期繰越金 1,228,824
		支出総計 7,599,410

収 入	千円	円
直接収入		
正 会 員 費	3,200	1,776,768
賛 助 会 員 費	300	230,000
会 誌 売 上	1,600	1,883,712
別 刷 代	1,350	1,342,348
広 告 料	50	0
文部省補助金	550	270,000
計	7,050	5,502,828
間接収入	千円	15,368
利 息 等	50	(寄付) 140,000
計	50	155,368
		前期繰越金 1,941,214
収入総計	7,100	7,599,410

会則第 6 条の一部改訂

現 行	
第 6 条	会員はつぎの種別に従って会費をその年の 6 月 30 日までに納めなければならない。 ただし……
改 訂	
第 6 条	会員はつぎの種別に従って会費をその年の 3 月 31 日までに納めなければならない。 ただし……

昭和 50 年度 (第 12 回) 秩父宮記念学術賞

授賞候補の推薦について

「山」に関する個人またはグループによる学術上顕著な研究調査の業績で、学術文献として公刊されているもので、上記賞に推薦したいものがありましたら、学(協)会を通じて提出して下さい。様連絡がありました。詳細は下記にお問合せ下さい。

連絡先: 日本学術振興会
TEL (03) 263-1721 (代)

期 限: 昭和 51 年 1 月 31 日

第13回理工学における
同位元素研究発表会

下記の要領で開催されます。発表申込、申込書については、

(113) 東京都文京区本駒込2-28-45

日本アイソトープ協会内、理工学における同位元素研究発表会運営委員会 TEL (03) 946-7111 (代表) にご連絡下さい。

発表申込締切：昭和51年2月28日(土)必着。

講演要旨：要旨集発行のため、発表申込みあり次第、所定の原稿用紙(1,400字程度)送付。

講演要旨原稿締切：昭和51年4月15日(木)必着。

発表時間：1件につき15分以内の予定。

発表申込区分：11区分あり。運営委員会に問合せのこと。

共同主催者：本学会を含めて、48学協会。

第2回水—岩石相互作用シンポジウム

上記シンポジウムの第1回サーキュラーが送られてきましたので紹介いたします。

会議名 2nd International Symposium on Water—Rock Interaction

開催地 Strasbourg, France

会期 1977年8月17日～25日

会長 Dr. B. HITCHON

事務局長 Dr. Yves TARDY

連絡先 Institut de Geologie, 1, rue Blessig, 67084, Strasbourg, FRANCE

シンポジウムのテーマは

1. Near surface environments
2. Saline environments
3. Elevated-temperature environments
4. Experimental and theoretical models
5. Practical applications and case histories

8月17日から21日までストラッブルグでシンポジウムが行なわれ、22日から25日までバスク、アルザス、ロレーヌ、ライン地溝帯の温泉、鉱泉、岩石についての地質巡検がある。第2回サーキュラーの必要な方は第1回サーキュラーの最後の頁にある書類に記入して Dr. TARDY に郵送すると(1976年3月1日まで)、1976年夏頃に郵送されて来る予定です。講演要旨提出期限 1976年7月1日、論文提出期限 1977年初め頃。

この会議は1974年プラハ(チェコスロバキア)で開かれた第1回 WRI 国際シンポジウムに続くものです。

サーキュラーは郵送料節約のためにまとめて小生あてに送られて来ました。サーキュラーあるいは申込書式などを必要な方はご連絡下さい。

神奈川県温泉研究所 大木 靖 衛
TEL 小田原 (0465) 23-3588 (代)

第26回国際純正応用化学連合化学
会議の日本開催(ご案内)

会期 1977年9月4日(日)～10日(土)

会場 東京赤坂地区

発表申込 1977年3月31日〆切

First Circular 入手希望者は、返信用封筒(定形大形25円切手貼付)同封のうえ

〒101-91 東京神田郵便局私書箱56号

IUPAC 委員会へ申込むこと。

1. 合同シンポジウム「人類の福祉のための化学」
その他各種シンポジウム

第5回有機地球化学談話会報告

同談話会が地球化学討論会に先がけて10月22日午後2時から23日正午まで出席者44名のもとに大学セミナーハウスで開催された。

課題“有機物の分解速度”について3件、および話題提供6件について講演と討論がおこなわれた。

従来、当談話会の運営は有志によっておこなわれてきたが、一年間の猶予をもって正式に発足させることが席上提案された。その原案作成の世話を東北大理学部田口一雄氏および名古屋大学水研の半田暢彦氏に依頼することになった。

なお名簿の整備を予定しているので、同会に入会を希望する場合はその旨同氏に連絡して下さい。

本会元会員松浦新之助氏(福岡市)は、1975年4月6日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

学会事務所 (166) 東京都杉並区高円寺北4-35-8
気象研究所 地球化学研究部
電話 (03) 337-1111 内線 75
振替口座 東京 38679
日本地球化学会

ニュース (213) 川崎市高津区久本135
発行所 地質調査所 地球化学課
倉沢 一
田中 剛
電話 (044) 866-3171

日本地球化学会ニュース

No. 76

1976. V. 10

お知らせ

1976年地球化学年会

主催 日本地球化学会

共催 日本化学会

日時 10月14日(木)

～16日(土)

会場 名古屋大学教養部

(〒464 名古屋市千種区不老町)

内容 課題討論、特別講演および一般討論

課題討論 1) 現世堆積物の有機地球化学

2) 軽元素の安定同位体の地球化学

特別講演 1) 土壌有機物の地球化学

熊田恭一 (名大・農)

2) 観測宇宙論の現状と将来

早川幸男 (名大・理)

講演申込締切 6月19日(土)

同封の別紙申込用紙により申し込んで下さい。

講演部門はプログラム編成上変更することがあります。

討論時間は、20分(一般討論)以内です。

スライドは、35mmに限りです。

講演要旨原稿締切

講演申込みを受け次第、オフセット用原稿用紙をお送りいたします。それに黒インクで清書し、下

記にお送り下さい。

要旨は一般討論1200字(原稿用紙1枚)以内、
課題討論2400字(原稿用紙2枚)以内とします。

講演要旨代および参加費

一般2500円、学生2000円(前納)

郵送希望者は、送料300円を追加して下さい。

要旨集予約および参加申込締切 8月10日(火)

要旨集は印刷部数を限定しますので、ご入用の方は参加あるいは講演希望の有無にかかわらず、別紙申込書でお申し込み下さい。

総会 10月15日(金) 午後

懇親会 10月15日(金)

18時頃より行う予定(会費2000円)

申込書、要旨集原稿、予約金送付先

〒464 名古屋市千種区不老町

名古屋大学水圏科学研究所

1976年地球化学会年会実行委員会

電話 052-781-5111

内線 2539, 2541,

2554

申込書に印刷してある宛先用紙をご利用下さい。